



袋井あやぐも学園養護教諭部では、

よりよい人間関係を作るために 適切な言葉や行動の選択ができる子

の育成を目指しています。

課題

コミュニケーション能力の未熟さ

- ・自分の気持ちを素直に言葉として伝えることが苦手
- ・言葉が不足、意図しない伝わり方をしてしまう



人間関係のトラブルや悩みが発生

理由を説明しながら自分の気持ちを伝えることができるようになってほしい

全員を対象にコミュニケーションの学習を取り入れ、
中学校区全体のコミュニケーション能力の底上げをしよう！



取組

★健康の日での指導

- ①「こんな時、どうする？」
- ②「時間半分トーク」

★家庭と地域との連携

- ①家庭保健委員会の実施
- ②中学校区学校保健委員会の開催

①「こんな時、どうする？」

よりよい人間関係づくりに必要なスキルを身につける練習をします。

「友達にやめてほしいことを伝えるとき」や「悔しがっている友達に声をかけるとき」など、具体的な場面設定をして、適切な声の掛け方や対応の仕方について考えます。

ポイントは、「自分も相手も大切に」を意識して伝えることです。



②「相手の話をよ〜く聞こう」(小1〜小3) / 時間半分トーク(小4〜中3)

コミュニケーションの基本となる好ましい話し方や聞き方ができるように、話し方や聞き方のポイントを意識しながら、「話す・聞く」練習をしています。

Point



小学校も中学校も、毎月「健康の日」があり、同じ内容で指導をしています。お子さんに「今日の健康の日はどんなことをやったの？」と聞いてみてください。そして、お子さんの話を「よ〜く聞いて」あげてください。

健康の日の様子

★感想は教師用の振り返りより抜粋



「相手の話をよ〜く聞こう」(小1〜小3)/時間半分トーク(小4〜中3)



- ・話す側は、相手に聞こえる声で話すことと、相手を見て話すことを意識するように声掛けをしました。聞く側は、相手を見て聞くことと、最後まで聞くことを意識するように声掛けをしました。2点ずつ振り返ったときにできたという子が多かったです。
- ・にこやかな様子でできました。全体に共有する時もしっかり相手の話を聞いている様子がうかがえました。

「こんな時、どうする？」



- ・積極的に意見を言い合っていました。似たような状況は起こりがちなので、生徒は考えやすいようでした。
- ・自分たちによくあるシチュエーションで取り組みやすかったようです。「あり得る」場合を想定してできるのは良かったです。



<友達関係>

袋井あやぐも学園スクールカウンセラー 友野 圭子先生より

「喧嘩をした。」「嫌いな子がいる。」「ボッチ(ひとりぼっち)だ。」等、友達関係についてのいろいろな相談事を受けます。

小学校6年間、中学3年間は成長につれて気持ちは少しずつ親から離れて友達の方に傾きます。そして、友達で元気になり、友達でへこみます。

相談室では心に寄り添いながら「喧嘩したけど仲直りの方法」や「嫌いな子との付き合い方」や「ボッチでも友達作りのセリフ」などを一緒に考えたりアイデアを探したりしています。

小・中学校は 友人関係が壊れてもまだチャレンジできる格好の場所です。もし、家庭で相談を受けたら、最後まで聞いてください。そして解決策やセリフまで一緒に考えていただけたらと思います。

